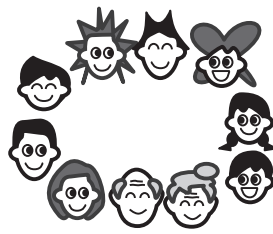


津谷歯科医院 口腔ケア新聞

NPO法人
訪問歯科診療
を広める会
賛助会員



令和2年4月号
発行人 津谷歯科医院
院長 津谷良
住所 岡山市中区海吉1807-14
紙面に関するお問い合わせは下記まで
電話：0120-779-418
配信代行：訪問歯科診療を広める会

皆さん、こんにちは！いかがお過ごしですか？

津谷歯科医院、院長の津谷良です。

今年の4月に歯科診療報酬の改定が行われ、口から食べられない方の口腔管理が新たに保険適応となります。本来、口から食べて胃や腸で消化し、必要な水分と栄養を体内に取り込むのが理想的ですが、摂食や嚥下に障害のある場合、非経口からの栄養管理をしなければなりません。しかし口から食べられないと口腔乾燥や唾液分泌の低下によって自浄作用が低下するため口の中の環境が悪化します。その結果、口腔内に細菌が増殖しやすくなり肺炎のリスクが高くなります。現在も肺炎が死亡原因の上位であることから厚労省では、口から食べられない場合、歯科による口腔管理を行い、肺炎を予防したいと考えています。そこで今月は、『経口摂取できない方の口腔管理』についてご紹介します。



◆ 口腔内に付着する膜状の汚れ

口から食べられない方は、一時的又は長期に渡って経管、経腸、経静脈等から栄養を摂取しています。療養場所によって非経口摂取の方の割合は下記のようになっています。

	特養	老健	介護療養型 医療施設	在宅
非経口摂取 の割合	7.0%	6.9%	46.2%	12.7%

(平成27年「医療施設・介護施設の利用者に関する横断調査」及び平成25年在宅療養者の摂食・栄養状態に関する調査研究)

通常私たちが咀嚼する時は頬粘膜と歯が、嚥下する時は上あごと舌が密着し擦れることでお互いの汚れを取り合っています。ところが口から食べられない方の場合は咀嚼・嚥下運動がなく、唾液の分泌は低下し口腔乾燥が続くため剥離上皮膜(はくりじょうひまく)、痂皮(かひ)、痰等が膜状に付着します。これら膜状の汚れは細菌増殖の温床であり肺炎の原因となるため、口腔ケアで除去する必要があります。剥離上皮膜は新陳代謝で剥がれた粘膜、痂皮は粘膜が傷つき出血した場所にできるかさぶたのことです。

剥離上皮膜、痂皮、痰はそれぞれ異なるものですが、ほぼ同じ方法で除去することができます。

◆ 経口摂取できない方の口腔ケア

はじめに、付着した汚れの除去が必要です。膜状の汚れははがせるものもあるのですが、その下の粘膜面を傷つけることがあるので、保湿剤を使ってやわらかくします。保湿剤は粘度が低めのジェルタイプを選ぶと早く汚れに浸透し、5分程度で粘膜を傷つけることなく安全にはがせるようになるので、スポンジブラシやガーゼ、やわらかめの歯ブラシ等を使って除去します。この時、誤嚥を防ぐため奥から手前へ除去するようにします。口腔ケア後は、汚染物を含む保湿剤はしっかりと拭き取ります。

◆ 経口摂取できない方の口腔管理

痂皮はいったん形成されると出血を繰り返すので予防としての適切なケアを心がける必要があります。無理をすると粘膜から出血して止血が困難となることもあります。そのためにも保湿剤やマスク、ネブライザーの使用、唾液腺マッサージ等、患者様にあった計画的な口腔管理が必要です。

◆ 経管・経腸・経静脈栄養の方の口腔管理が保険適応となります ◆

口腔ケア新聞の発行にあたって 

ここ数年、外来患者さんやそのご家族から訪問診療のお問い合わせやご依頼を受けるケースがとて増えてきました。小さなご病気されてしまったことがキッカケで、寝たきりになってしまわれたりして、「いつもお元気でいいですね」と話をしていただけなのに…。そんなことが続いたので、これは本格的に訪問診療に取り組まなければいけないかなって、強く思うようになりました。

そこで取り組みの一環として、要介護者の歯と口に関する情報を地域の介護に携わっている方にお届けしようと考え、口腔ケア新聞を毎月1回発行しています。

津谷歯科医院

診療時間 9:00~12:30/14:00~18:30
(土曜日は16:30まで)

診療科目 歯科 小児歯科

休診日 木曜・日曜・祝祭日

院長 津谷 良

岡山市中区海吉1807-14

☎ 0120-779-418 FAX 0120-779-413